

2022年6月29日(水)第五水曜祈祷会

詩篇125:1~5

「主に信頼する人々」

【都上りの歌】 * 120~134篇まで

1. エルサレムに巡礼する人たちによって歌われた。
2. イスラエルには古くから過越しの祭り(春)、七週の祭り(夏)、仮庵の祭(秋)の三大祭りがあった。
3. 内国人をはじめ、諸国に離散していたユダヤ人たちは、エルサレムに詣でる習慣を持っていた。

【観察と黙想】

1. 主(ヤハウェ)に信頼する人々

①「主に信頼する人々」「シオンの山のように」とは、どのような印象ですか(1節)。

→他のなによりも主により頼む人々。何があっても不動な状態、安定が保たれている。

②「山々」「今よりとこしえまで」とは、どのような印象ですか(2節)。

→「山々」はかつて巡礼者にとって不安を抱かせたもの。悔い改めに導くもの。永遠に続くもの。

③「悪の杖」「正しい人」とは、どのような印象ですか(3節)

→悪しき者の支配を表す。自分の義ではなく、ただ神のあわれみにより頼んでいる者のこと。

2. とりなしの祈り

①「善良な」「心の直ぐな人々」「いつくしみを施してください」とは、どのような印象ですか(4節)

→神の御心にかなう人々。主の恵みが人を正しい道に導く。人は絶えず神から離れようとする。

②「曲がった道にそれる者ども」「不法を行う者ども」とは、どのような印象ですか(5節)

→一度、神の契約にあずかり、後に背教した者。

③「イスラエルの上に平和があるように」とは、どのような印象ですか(5節下)

→単に争いがない状態ではない。主に信頼する人々に神にある平和があるようにという祈り。

【適用と分かち合い】

①今の世にあって、「主に信頼する」とは、自分にとってどういうことですか。

②私たちにとって神へと向かう際に妨げとなる「山々」は、どんなものがありますか。

③「シオンの山のように」というのに、なぜ「平和があるように」と祈っているのですか。

「主に信頼し 善を行え。地に住み 誠実を養え。主を自らの喜びとせよ。

主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」

詩篇37:3、4